

（財）自治体国際化協会 ロンドン事務所 マンスリー トピック（2012 年 10 月）

【英国での地域再生とまちづくりの成功事例 ～ 海沿いの「文化地区」や住民による野菜栽培など】

本報告書では、英国内の 3 地域で非営利団体や住民グループなどが実施している地域再生事業またはまちづくりのプロジェクトを紹介する。

衰退した沿岸地区を文化地区として再生 ～ ケント県フォークストン地区

英政府による地域活性化の取り組みにおいて、現在、最も緊急の課題の一つとして捉えられているのが、沿岸地域の経済再生である。沿岸地域の経済の衰退という問題は、長年の間、都市の貧困問題の陰に隠れ、政府の優先順位が低かったが、2012 年に「海岸地域コミュニティ再生ファンド (Coastal Communities Fund)」が設置され、ようやく国による取り組みが行われることになった。「海岸地域コミュニティ再生ファンド」とは、英国の海岸沿いの地域に位置する小規模コミュニティの経済活性化プログラムを対象とする政府の補助金制度である¹。2012 年 8 月には、イングランド南部 ボーンマス市での「国立沿岸地域観光業アカデミー」の設立事業などを含む 6 つのプロジェクトが、同ファンドの最初の補助金支給対象事業として発表された。「国立沿岸地域観光業アカデミー」とは、海岸沿いの地域の観光業に特化し、観光業者にトレーニングを提供する欧州初の教育機関である。ボーンマス市は、「海岸地域コミュニティ再生ファンド」から支給される 200 万ポンドの補助金を、「国立沿岸地域観光業アカデミー」の設置費用のほか、地元の観光産業の支援、沿岸地域の観光業に関する調査研究の費用に使う。

* * *

「海岸地域コミュニティ再生ファンド」からの補助金の交付対象には含まれていないが、英国の沿岸地域の経済再生事業の一例を紹介すると、イングランド南東部ケント県²シェプウェイ (Shepway) 市内のフォークストン (Folkestone) 地区では、同地区を文化・芸術の中心地として生まれ変わらせる民間団体によるプロジェクトが既に一定の成功を収めている。フォークストン地区は、かつては漁業と港湾業で栄えたが、漁業が不振に陥り、また 2001 年にフェリー港が閉鎖された後は、衰退が顕著になっていた。

このプロジェクトは、同地区を拠点とする非営利団体「クリエイティブ財団 (Creative Foundation)」

¹ 「海岸地域コミュニティ再生ファンド」については、2012 年 5 月の月例報告書も参照のこと。

² ここで言う「県」は、「county (カウンティ)」の訳語である。「county」とは、主に非大都市圏の二層性地域に位置する広域自治体である。

の会長であるロジャー・デ・ハーン氏の構想で始められた。デ・ハーン氏は、50 歳以上の中高年層をターゲットとして旅行商品や保険などを販売し、フォークストン地区の最大の雇用主となっている「サガ・グループ (Saga Group)」の元会長兼所有者である。

デ・ハーン氏は、2002 年に「クリエイティブ財団」を設立した。同財団は、フォークストン地区内の 20 万平方フィート(約 18,580 平方メートル、約 5,621 坪)の土地とその土地内の建物を購入したうえで、これらの建物を修復・改装し、一帯を「クリエイティブ地区 (Creative Quarter)」と名付けた。「クリエイティブ地区」は、フォークストン地区の生活の質の高さをアピールしたことも功を奏して多くの人々を引き付け、現在までに、文化・芸術団体の事務所やデザイン会社のオフィス、ギャラリーやアーティストのスタジオなどが集まる文化地区に様変わりしている。フォークストンは、2009 年から、2007 年に開通したロンドンと英仏海峡トンネルの英国側出口を結ぶ高速鉄道の停車駅になっており、このことも、文化・芸術団体などが「クリエイティブ地区」への移転を決断することをより容易にした一因であると考えられる。

クリエイティブ財団のその他の主な事業には、フォークストン地区内での文学フェスティバルや 3 年に 1 回のアートフェスティバルの開催などがある。また、ケント県カンタベリー市内に位置するカンタベリー・クライスト・チャーチ大学とロンドンのグリニッジ大学とのパートナーシップで、「クリエイティブ地区」内に、芸術関連のコースを提供する「フォークストン大学センター (University Centre Folkestone)」を設立するなどしている。

文化・芸術活動が主導する地域再生プログラムは、特にこのように大規模なものである場合、経済的リスクが大きいという意見もある。こうした見方に対し、デ・ハーン氏は、国内外での同様のプロジェクトの動向を注視しており、他地域と比較して、フォークストン地区のプロジェクトが持続可能性を持てるよう尽力していると述べている。例えば、多くの文化施設が並ぶアイルランド・ダブリン市のテンプル・バー地区では、好況期に高騰した不動産価格が、金融危機によるバブル崩壊で暴落するという事態を経験した。また文化的な地域として知られるロンドン東部のホクストン地区では、過去 10 年ほどの間、賃貸料が高騰し、以前から同地区を拠点としていたギャラリーやアーティストなどの多くが他地域に流出するという現象が発生している。「クリエイティブ地区」では、こうした事態を避けるため、クリエイティブ財団が全ての物件の家主になっており、家賃をコントロールしている。このことによって、フォークストン地区の魅力を高め、地域に新たな繁栄をもたらしているアーティストや文化施設などが、家賃高騰のため他地域に追い立てられることなく、成長・発展することを可能にしたい考えである。

現在 60 代のデ・ハーン氏は、自身の「退職プロジェクト」であると考えられる³この事業によって、時に不名誉な評判も聞かれるフォークストン地区の住民に、地域への誇りを取り戻すことができた

³ デ・ハーン氏は、サガ・グループを 2004 年に 13 億 5000 万ポンドで売却している。

考えている(フォークストン地区内のある中学校は、10 年前、当局の調査で、イングランドの全中学校のうち、3 番目に学業成績が低いとの評価を下されたことがある。また、同じく10 年前、フォークストン地区の住民の半数以上が、イングランド全体の所得レベルの下から20%に入ることが政府の調査で分かった)。同氏は、過去の地域再生事業で得られた教訓から学びながら、フォークストン地区で生み出された地域再生と繁栄へのモデルが、経済停滞に苦しむ英国の他の沿岸地域にも適用できると考えており、これに同意する人も少なくないようである。

自治体によるシティの地位獲得に貢献したまちづくり事業 ～ エセックス県チェルムスフォード市

次に、ロンドンの北東に位置するエセックス県下の基礎自治体であるチェルムスフォード(Chelmsford)市の事例を紹介する。チェルムスフォード市は、2012 年にエリザベス女王の即位 60 周年の記念行事の一環としてシティの地位⁴を付与された英国内の 3 つの自治体のうち、唯一のイングランドの自治体であった。チェルムスフォード市のシティの地位獲得に多大な貢献をしたのが、「王立芸術協会(Royal Society of Arts, RSA)」⁵の会員の主導で実施されている同市のまちづくりプロジェクト「チェルムスフォードを変える - 斬新なビジョンの探求(Changing Chelmsford - how bold is your vision?)」である。チェルムスフォード市が 2012 年に政府に提出したシティの地位の申請書類で、同プロジェクトは、「地域の住民、研究者、企業が団結し、チェルムスフォードにとっての最も理想的な未来を考える画期的なプログラム」と紹介されていた。過去 2 年ほどの間、チェルムスフォード市は、このプログラムを通じて、より良い地域の実現を目指す住民間の対話、協働、(そして最も重要なことに)コミュニティ活動といったプロセスを経験し、このことが、エセックス県下の自治体で初のシティの地位獲得につながった。

しかし、シティの地位獲得は、現在も継続中であるチェルムスフォード市のまちづくりプロジェクトがこれまでに実現した成果の一部に過ぎない。このプログラムは、2010 年に、エセックス県、チェルムスフォード市、「都市化研究所(Academy of Urbanism)」の職員及び王立芸術協会の会員から成る少人数のグループが、「チェルムスフォードを変える」と銘打ったパイロット事業を立ち上げたことから始まった。パイロット事業の目的は、チェルムスフォード市の戦略的ビジョンの策定であり、過去とのつながりを保ちながら未来に向けた市のアイデンティティを確立することが狙いであった。

パイロット事業の立ち上げ当初は、2008 年にチェルムスフォード市が採択した「地域行動計画

⁴ 英国では、国王または女王が、「勅許状(royal charter)」の発行によって、自治体に「シティ(city)」または「バラ(borough)」の地位を付与することができる。シティまたはバラの地位の獲得は、自治体にとって名誉であると認識されているが、新たな権限や機能、政府補助金を獲得できるなどのメリットはない。チェルムスフォード市は、シティの地位を獲得する以前は、バラの地位を有していた。

⁵ 「王立芸術協会」は、産業、科学、芸術分野の水準向上を目的に 1754 年に設置された団体。正式名称は「芸術、製造業、商業奨励王立協会(Royal Society for the Encouragement of Arts, Manufactures and Commerce)」。会員数 2 万 7000 人。

(Area Action Plan)』⁶の内容に基づき、市中心部の開発計画に影響を与える方法について検討した。パイロット事業の運営資金は、エセックス県及びチェルムスフォード市からの補助金、企業からのスポンサー料、及び王立芸術協会の補助金提供プログラム「カタリスト(Catalyst)」⁷から調達した。さらに、プロジェクトの実行責任者が任命され、地域の住民、企業、専門家が参加して、チェルムスフォード市の魅力を高め、地域の繁栄を促進するための取り組みが徐々に構築されていった。

2010年5、6月には、計8回のワークショップと、「私たちのような街(Town Like Ours)」と題するシンポジウムが開催された。このシンポジウムでは、英国及びEU加盟国内の複数の地域の代表者が、それら地域で実施された同様のまちづくりプロジェクトについてプレゼンテーションを行った。また、2010年より毎年、「市民集会(Town Commons)」と呼ばれる年1回のワークショップが開催されている。これらの結果、チェルムスフォード市のまちづくりに向けた100以上のアイデアが提案され、これまでに、それらの案から生まれた18のプログラムが実行されている。

さらに、2011年からは、年1回、「アイデア・フェスティバル(Ideas Festival)」と銘打ったイベントを開催している。2012年のフェスティバルでは、「ヘリテッジ・トライアングル(Heritage Triangle)」と呼ばれるプログラムに関する討論会と展示会などを含む42のイベントが開催された。「ヘリテッジ・トライアングル」とは、現在は全く使用されていないかまたは十分に活用されていないチェルムスフォード市内の3つの歴史ある建物の新たな利用法を探し、またそれらの建物を互いに関連付けた広報活動を行うというプロジェクトである。これら3つの建物とは、18世紀に建設されたクエーカー教徒の集会所、マルコーニ(Marconi)社の元工場、ジョージア朝建築様式の元裁判所である。現在までに、これらの建物は全て、新たな利用法が見つけられたり、または改装が進められている。

王立芸術協会の会員で、「チェルムスフォードを変える」のプロジェクト委員長であるマルコルム・ノーブル氏は、同協会のウェブサイトに掲載された記事中で、このプロジェクトがこれまで成功を収めている理由として、下記を挙げている。

・熱意ある人材をプロジェクトに引き込んだ — こうしたプロジェクトでは、地域のあらゆるエリアから、様々なバックグラウンドを持つ人々に参加してもらう必要がある(王立芸術協会の会員からこうした人材を探すのは良いアイデアである)

・プロジェクトの運営母体として正式な組織を設置した — これは、プロジェクトを継続させるために不可欠な条件である(「チェルムスフォードを変える」の運営母体は、「コミュニティ利益会社(Community Interest Company、CIC)」⁸と呼ばれる法人格を取得している)

⁶ 「地域行動計画」は、2008年にチェルムスフォード市が採択した同市中心部の開発計画である。

⁷ 「カタリスト」は、王立芸術協会の会員が主導で行われ、社会に良い影響をもたらすと考えられるプロジェクトに補助金を提供するプログラムである。

⁸ 「コミュニティ利益会社」とは、コミュニティの利益促進を目的に事業活動を行う社会的企業(social enterprises)

・厳密な計画を策定した ― これは、プロジェクトを前進させるための鍵となる要素である。

最後に、チェルムスフォード市のアベリル・プライス・コミュニティの安全向上担当部長は、2012年11月、「地方自治クロニクル(Local Government Chronicle)」誌に対し、シティの地位を有することによる同市の経済成長への効果について、次のように述べていた。

「地域の経済成長は、時間のかかる複雑なプロセスになり得ます。シティの地位は、これ(地域の経済成長)を達成できる魔法の杖ではありません。しかし、シティの地位を得たことが、市の野心的な経済成長計画の実行を既に助けしていると私たちは確かに考えています。シティの地位の獲得によって、国内外でチェルムスフォード市の認知度が確実に高まり、特に企業や投資家の間で我が市の名が知られるようになりました。チェルムスフォード市によるシティの地位申請は、ジョン・ルイス、BAE システムズ、e2v テクノロジーズ、アングリア・ラスキン大学などの企業や組織から支持されました。これらの企業や組織は、シティの地位を有することによって、長期的な利益がもたらされることを認識しています。厳しい経済情勢が続く中、シティの地位を付与されたことは、チェルムスフォード市にとって歓迎すべき事実です」

公共スペース利用の野菜栽培で地域での食料生産奨励 ～ イングランド北部トッドモーデン地区

本報告書で3つ目の事例として紹介するのは、イングランド北部カルダーデール市内のトッドモーデン(Todmorden)地区で住民グループが実施している、地域での食料生産を奨励するユニークなプロジェクトである。「インクレディブル・エディブル・トッドモーデン(Incredible Edible Todmorden, IET)」⁹と銘打ったこのプロジェクトは、同地区の住民が2008年に始めたもので、王立芸術協会の会員が、その実行、支援、広報で重要な役割を果たしている。プロジェクトの主な活動の一つは、商業施設の駐車場や学校の校庭、墓地、道路脇などの公共スペースの空いた場所に菜園を作り、野菜やハーブ(香草)、果物などを栽培することである。これらの菜園で栽培された野菜等は、誰でも自由に取って持ち帰ることができる。

現在までに、プロジェクトの実施エリアはトッドモーデン地区全体に拡大しており、同地区内の全ての学校が参加している。特に、地区内のある中学校では、同プロジェクトに参加したことでBTEC¹⁰の資格を付与する農業コースが導入されたり、環境関連団体との協力で、持続可能な方法で魚の養殖を行う試みが進められるなどしている。また、養蜂技術を学んだ40人のボランティアが蜂蜜の採取に取り組んでいるほか、自身で菜園を始めたい人に対しては、園芸用具貸出所で用具の貸出も行う。加えて、ハーブ園で栽培されたハーブを使った石けんの製造会社など、このプロ

のための法人格。2005年に創設された。

⁹ 「incredible」は「驚くほど素晴らしい」、「edible」は「食用に適する」の意味。

¹⁰ BTECとは、「産業・技術教育協議会(Business and Technology Education Council)」が付与する職業資格である。

ジェクトの結果、複数の小規模企業がトッドモーデン地区内に誕生している。

「オブザーバー」紙は、2012 年 5 月、このプロジェクトを紹介する記事を掲載し、「(トッドモーデン地区に隣接する)ヘブデン・ブリッジ地区とトッドモーデン地区は、企業や政府に幻滅し、政府による歳出削減に嫌気が差した英国民の間で活発化している動きの先駆者的存在である」と指摘した。同記事によると、英国では最近、住民による自主的なコミュニティ運営の試みが拡大しており、例えば、住民グループが閉鎖の危機にある地域のパブや映画館、劇場の運営を引き継いだり、再生エネルギー発電プロジェクトに取り組んでいる例などがある。

同記事は、このプロジェクトのユニークな点として、下記を紹介していた。

- ・警察による麻薬栽培場の摘発で押収された堆肥やじょうろを菜園で使用している。
- ・トッドモーデン地区内の墓地にバラの花壇を作ることを希望する地域住民に対し、より生産的な試みを行うよう奨励し、墓地内にブロッコリー畑を誕生させるなどした。
- ・トッドモーデン地区内の鉄道駅の外に菜園を作ったり、植木鉢を置くなどしてハーブを栽培し、通勤客が自由に新鮮なハーブを摘むことができるようにしている。
- ・雑草取りなどの菜園の維持管理は地域住民が行う。これらの住民は、不定期で日曜日に 1 時間ほどをこのプロジェクトのために使うなどしている。